

今年の防災の日は、福田首相の突然の辞意表明で激震に見舞われ、防災訓練のことなど吹っ飛んでしまった。このためあまり報道されていないが、今年の総合防災訓練は、これまでずっと中心だったた「東海地震」が「政府本部運営訓練」の想定からはずされ、「東南海・南海地震」だけになつたという意味で画期的なものだつたと思う。

今回は、この東南海・南海地震について考えてみたい。

【東南海・南海地震と東海地震】中央防災会議の「東南海・南海地震等に関する専門調査会」から「東南海・南海地震の被害想定について」が発表されたことは、2003年9月のことだ。

伊豆半島から南西諸島の地震は、100年から

東南海・南海地震を考える(1)

この地域の海溝型地震には、静岡県内陸部から浜松沖を震源域とする「東海地震」、愛知県(河川)沖から紀伊半島南端を震持ち、震度7の地域が静止するため、M8クラスのこのため、巨大津波による大きな被害が予想されるほか、震度6強程度の地域を結ぶように全県に及び、家屋の倒壊などで発生するこ予想されてい

たが、広さ9400km²東海地震より遙かに大きくなる。この地域の海溝型地震に及ぶ震源域が静岡県の内陸の奥深くまで達しているため、M8クラスのこのため、巨大津波による大きな被害が予想されるほか、震度6強程度

世界の地震史に残るM8・5前後のレベルにはなるだろう。これを見ると、まず震度については、静岡県の御前崎から高知県の足摺岬にいたる太平洋岸沿いに震度6強以上の地域が連亘しており、伊勢湾沿岸も知多半島や三重県の津市のあたりまで、震度6強以上の地域が入り込

冲まで日本列島の南岸沿いに横たわる「南海トラフ」沿いに、「フィリピン海プレート」の潜り込みによって生じた大陸側のプレートの歪みを解消すが、今年の総合防災訓練は、これまでずっと中心だったた「東海地震」が

今年の防災の日は、福田首相の突然の辞意表明で激震に見舞われ、防災訓練のことなど吹っ飛んでしまった。このためあまり報道されていないが、今年の総合防災訓練は、これまでずっと中心だったた「東海地震」が

地
水
火
風
恒
牧
野

恒牧野一

んでいる。ちなみに名古屋市は震度6弱程度とされている。

震度6強以上の地域に含まれる人口稠密地域は、それでも高知市や津市など県庁所在市や浜松市なども含まれており、

大津波が来襲するとそれが、大阪や神戸を始め都市が集中している大都市も多い。東南海・南海地震におけるこの地域

の太平洋岸地域で、地震による被害も予想され、

「東南海・南海地震の被書想定」

2003年に発表された被書想定は、東南海地

震と南海地震の震源域が大部分が海域になつていて、震源域の広さが前

に想定で行われた。報告書に者は150000k²、後者は378000k²と

(次号に続く)

たが、震度6強程度だが、位置と地形によっては5mに達するところもある。また、宮崎県でも2~5mの津波が到達する。

忘れてならないのが瀬戸内海沿岸で、各地に高さ3m程度の津波が来る

と予想されている。鳴門海峡や豊予海峡でブロッサクされるため到達までに2時間以上かかるが、高さ3mは馬鹿にできない。位置や地形に關係な

い場合と推計されている。津波による被害と搖れによる被害を合わせると、東南海・南海地震では、家屋の全壊は33~36万棟、死者は12100~17800人に上ると

津波の被害

東南海・南海地震で注目すべきは、何と言つても津波の被害だろう。

二重県志摩半島から高知県の足摺岬に至る太平洋岸が軒並み高さ5m